

ITC活動事例『大津鉄工(株)「新生産管理システム」構築への参画』

この申請が、2004年7月中旬に採択され、今年の2月中旬までの7ヶ月間で本社工場における新生産管理システムの稼働に漕ぎ付けたわけです。

7ヶ月という短期間にRFP作成、ベンダー選定、IT導入などをこなしたことになりますが、助成金事業でのシステム構築は、今回に限らず短期決戦〔大体が7ヶ月程度の期間しかない〕となりますので採択前の事前準備や、経営者の強い意志(信念)、あるいは従業員の結束、我々ITCやベンダーを包含した協力体制があって始めて実現するものと捉えております。

最後になりますが、ITCとしての反省と今後の課題を付記させていただきます。

まず、ITCのスキルは高いに超した事は言うに及びませんが、ITCのみなさんそれぞれが得意分野をお持ちのはずです。要はどんな案件でも単独対応より、ITCチームによる連携プレー、補完効果による質の高いコンサルティングの実現がお客様への最高のサービスになるのではないのでしょうか。

お客様側の問題として、プロジェクトを発足させてシステム構築していく手順は常套手段ですが、参加メンバーが現状実務をこな

しながらの対応は負荷バランスが難しく、意思疎通も時間が掛かるものです。この対策として有効な方法がマネージメント研修の実施でした。隔週おきの週末にメンバー全員が一同に介し4回実施したのですが、成果は極めて大きくスキルアップの学習より“チームワーク醸成”“ミッション認識”に最適の手法と思えました。

他の気付きとしては、IT系ITCとしての反省ですが、各ベンダーの商品知識というより、商品自身の特徴、得意技、課題などのノウハウ情報は常日頃よりベンダー商品説明会などに参画して、研鑽すべきです。経験豊富なITCであればまだしも、駆け出しのITCは、自主勉強会などを通してスキルアップを図っていく必要ありと反省しております。

RFPの記述内容や経営分析手法についても幾多の課題がみつかりました。これらはITC中部の自主研究会に応募して研究継続をさせて戴いております。来年の合同自主勉強会にて成果を発表しますので期待しておいてください。

注1: NSC-ITCCの活動や問合せ等は、ITC中部・事務局までご連絡ください。

(ITC中部 高間 正敏)

IT経営応援隊フェアin名古屋

2005年6月8日～10日の3日間、吹上ホールで開催されたビジネスウェーブ21で「IT経営応援隊フェアin名古屋」が実施され、ITC中部は中部IT経営応援隊からの依頼で「IT経営応援隊ブース」の運営を行いました。

「IT経営応援隊ブース」では、ITC中部会員によるIT経営事例発表等のミニセミナー、ITCによる個別企業無料相談会、ITC各種資料の配布、来場者アンケートを実施しました。

初日は同時に中部IT経営応援隊主催の「IT経営応援隊・事

例発表セミナー」が開催されたこともあり、このミニセミナーにも多くの来場者がありましたが、2日目、3日目はビジネスウェーブ21全体の来場者が少なく、このブースも少し寂しい状況でした。

運営は今年も広報委員と評議員及びITCの有志の皆さんによるご協力が無事に実施することが出来ました。この場をお借りして、感謝申し上げます。今後もこのようなイベントでは会員の皆様のご協力をお願い致します。

(ITC中部 日比 政博)



事務局便り

① ITC中部の事務局が移転しました

ITC中部の事務局が名古屋ソフトウェアセンターの3階から1階(ARU事務所内)に移転しました。電話番号が変更となりましたのでご留意ください。

【新電話番号】 052-889-1797

② 会員情報(プロフィール)更新のお願い

入会時に会員情報を登録して頂きましたが、そろそろ内容が古くなってきた方も少なくないと思われます。ITC中部のHP(<http://www.itc-chubu.jp>)の“会員ナビ”をご覧の上、訂正が必要な方は事務局(info@itc-chubu.jp)までご一報ください。また事務局からの諸連絡は会員情報に登録されている「住所」「メール

アドレス」宛に送付しています。「広報誌が届かない」「会員メールが届かない」という方は新しい連絡先を事務局までお知らせください。(「住所」「メールアドレス」は“会員ナビ”では公開していません。)

③ 年会費納付のお願い

会員の中に年会費未納の方がおられます。該当の方には会費督促のメール(または葉書)を送付しますので宜しく願います。(4月11日に銀行振込にて無記入で振り込まれた方がおられます。心当たりの方、会費督促メールが届きましたらご一報をお願い致します。)

(ITC中部事務局 高間 正俊)

NPO・ITC中部広報誌第5号 平成17年9月30日 発行

発行：NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山五丁目11-6(NSC)内)

発行責任者：NPO・ITC中部 理事長 水口和美 編集責任者：NPO・ITC中部 広報委員長 日比政博

ホームページ(<http://www.itc-chubu.jp/>)



水口新理事長就任の挨拶

本年4月から理事長を拝命しました水口です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ITコーディネータ制度は5年目を向かえ、6000名のITCを数えるまで拡大し、ますます「経営とITの架け橋となる」ITコーディネータの真価が問われています。ITコーディネータ協会では、ITコーディネータ制度普及の第2ステージと位置づけ、本年度の事業計画の重点施策として下記を掲げています。

- ① ITコーディネータ制度の普及・啓蒙活動(ITCの活動成果のPR等、認知度の向上)
- ② ITコーディネータ活動支援(IT経営応援隊・金融機関・団体・個別企業との連携、届出組織間の情報交流)
- ③ ITコーディネータ制度の改善見直し(ITCプロセスガイドライン改訂、試験・ケース研修・ポイント制度の改善)
- ④ 情報システム活用による業務効率化とITコーディネータ活動支援(ITC活躍事例の紹介、各種ツールの提供、Web活用による業務効率化)

ITC中部としては、上記協会の活動に積極的に参画し、大いに発言してITC中部の知名度向上を図り、会員がますます活躍できる場の拡大に努めます。「ITC中部ここにあり」を目指しましょう。

ITC中部はNPO組織の会員数で全国一の規模となり、全国の届出組織から注目される存在となりました。NPO・ITC中部の理念「中部地区のIT高度化／促進に一層の貢献をする」の実現に向けて、一層の研鑽が必要となりました。

本年度の活動方針は以下に示す通りです。

- (1) ITC中部会員の更なる技術向上に寄与する
・ポイント獲得の支援(セミナー・勉強会)
・技術情報／ポイント獲得情報の収集・提供
- (2) ITC中部会員相互はもとより他団体との交流を促進する
・会員相互の交流会、ITC所属組織との協業化
・他地区団体との交流促進
・中部IT経営応援隊との連携強化
- (3) ITC中部内における個別プロジェクトの促進を図り、会員および所属組織の収益に寄与する
- (4) ITC中部の組織の強化と質的充実
・ケース研修各クラスの連携と支援
・会員のITCスキル向上を図る

理事・評議員・各委員会委員の皆様のご努力によって、活動の成果が上がっています。特に会員の皆様が最も苦勞される「知識ポイントの取得」に



水口和美理事長

つきましては、中部地区だけで合計15ポイントが簡単に取得できる支援体制ができ、他地区にはない特徴となっています。今年度は、既に開催済の「IT経営応援隊フェアin名古屋」を始め、PMBOKセミナー、名古屋市講演会、例会・講演会、総会・講演会と目白押しのポイントセミナーが計画されています。ITC中部会員であれば、もう知識ポイント取得に苦勞することはありませんね。

また、会員の研究活動支援策として、自主研究助成制度を新設、今年度は5つの自主研究がスタートしています。

1. セキュリティ関連ソリューションの研究(ITC東海自主研究チーム)
2. 自治体の情報セキュリティ監査業務に関するプロセスの研究(情報セキュリティ監査研究会)
3. RFP標準化によるテンプレート制作研究(RFPテンプレート研究会)
4. 経営診断ツールの制作(経営診断ツール研究会)
5. 戦略的ICT／ISの第4セクター方式組織の応用(戦略的ICT／ISの第4セクター方式組織の応用研究会)

これらの研究成果は、1月から2月に開催予定の「自主勉強会」で発表されます。大いに期待しましょう。

こうした活動は、まだまだ一握りの会員の方々に限られています。そこで会員の皆様には、自己研鑽と社会貢献のために積極的にITC中部の活動に参画してください。できるだけ多くの会員の知恵と努力で、充実した活動を展開し、他地区をリードする存在になりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(ITC中部 理事長 水口 和美)

ITC中部平成16年度定期総会

定期総会が平成17年3月26日に会員96名の参加を得て盛大に開催されました。
併せて、毎年恒例として記念講演会も盛大に開催されました。

本年度は法人化して1年半となり、初めての理事任期満了による理事の再任期と追加も審議されました。

講演会は3演題を各講師の専門的な視野から今後のITコーディネータとして必ずや役に立つと思われるお話を伺うことが出来ました。

講演プログラムは次のような内容でした。

講演1 中部経済産業局 産業企画部 情報政策課 課長補佐

演題：「中部IT経営応援隊」平成17年度活動方針について

講師：山口 昌彦 氏

講演2 内閣府CIO補佐官兼内閣官房CIO補佐官

三井情報開発株式会社総合研究所主席コンサルタント

演題：電子政府構築計画の一考察

講師：本田 実 氏

講演3 中小企業経営支援協議会理事長 (株)ホロニック代表取締役・公認会計士

演題：ITコーディネータの中小企業に対する役割とは？

講師：野田 勇司 氏

定期総会に付いて議題は、

- ①平成16年度事業活動報告
- ②平成16年度決算報告
- ③平成17年度基本方針の審議決定
- ④平成17年度予算案の審議決定
- ⑤各委員会事業報告及び事業計画の審議決定
- ⑥役員選任の審議決定

以上の審議事項を全て満場一致で承認していただくことが出来ました、大変ありがとうございました。また、本年度の役員は次の方をお願いする事となりました。

理事長 水口 和美

副理事長 矢口 隆明、和澤 功

専務理事 江坂 昭

事務局長 高間 正俊

理事 磯部 秀敏、町田 孝道

監事 井上 新、関口 幸一

理事の新任追加 高間 正俊、森田 正博、以上敬称略
尚、理事の任期は2年間となりますのでよろしくお願いいたします。



ITC中部平成16年度定期総会



講演 山口 昌彦氏

(ITC中部 江坂 昭)

中産連主催ビジネスプロセス改革シンポジウム

ITC中部及びITCAが後援をし、4月20日(水)に愛知県厚生年金会館において、百余名の方々のご参加をいただき、ビジネスプロセス革新シンポジウム(中産連主催)を開催いたしました。本シンポジウムでは、ネットワーク社会における近未来に求められる経営変革の方向性をテーマに、基調講演とパネルディスカッションを行いました。基調講演には、「ユビキタスが招いた価値転換」と題して、(株)MM総研の中島洋取締役所長をお迎えしました。また、パネルディスカッションでは、「ネットワークの発達・ユビキタス環境の進行により近未来に求められる経営変革」と題して、ワークプレイス・リサーチ・センターの小田毘古代表をコーディネーターに、日本テレコム(株)の倉重英樹取締役代表執行役社長、鍋屋バイテック会社の岡本太一代表取締役社長、(有)ワイエスマネジメントの岩佐豊代表取締役のみなさまをパネリストとして、活発な討論をいただきました。

(ITC中部 本多貴治)



中産連主催ビジネスプロセス改革シンポジウム

JSAG／SAAJ中部合同オープンフォーラム2005

平成17年5月28日に、岐阜県大垣市ソフトピアジャパンに於いて、JSAG(日本システムアナリスト協会)、SAAJ(日本システム監査人協会)中部支部の主催、中部経済産業局、岐阜県、ソフトピアジャパン、名古屋ソフトウェアセンター、三重ソフトウェアセンター、ITコーディネータ協会、ITC中部からの後援を頂き、「地方におけるIT技術者の『貢献、育成、連携』」について議論するフォーラムを大会の実行委員長として開催し、システムアナリスト、システム監査人、ITコーディネータなど、120名を超える方々のご参加を頂きました。

セミナー「貢献」では、ソフトピアジャパン理事長の熊坂賢次様に、「コモンズ型ネットワークと社会貢献」について講演を頂き、セミナー「育成」では、JSAG関東・SAAJ会員の原田奈美様に、「これからのIT人材の育成」についてご講演を頂きました。パネルディスカッション「連携」では、「地方におけるIT技術者団体のネットワーク」について、近畿・北信越・九州・中部地区の各パネラーおよび会場の方々と、有意義なディスカッションを行い、最後に、IT技術者の連携、育成、貢献を参加者全員に呼びかけ、拍手の嵐の中でフォーラムは終了致しました。

今後、ITコーディネータも地域間での交流も深め、更なる連携を強化して行くことが大切であると考えます。

(ITC中部 石井 成美)



JSAG/SAAJ中部合同オープンフォーラム2005
パネルディスカッション

ITC活動事例『大津鉄工(株)「新生産管理システム」構築への参画』

《IT経営応援隊》の「IT経営百選」にて優秀な中小企業を表彰する制度があることはITCの皆さんはご存知だと思います。経営戦略、ITの活用実態が優れていて、他の中小企業経営者の目標となる企業が100社余り表彰されました。

ここでご紹介する大津鉄工(株)は、この「IT経営百選」の優秀賞に選ばれた企業で、RF-IDを使って製造工程を中心にトレーサビリティを向上させ多品種・超短納期の生産管理システムを稼働させたことが評価されたものです。

さて、ITCとのかかわりは、3年前に(株)名古屋ソフトウェアセンター(NSC)が、ここの経営分析を対応したことがキッカケです。その後、現行の陳腐化したオフコンシステムを更改したい、業界特有の短納期、個別生産に柔軟に耐えられるIT支援システムを構築したい等のご要望を、お聞きしてITCがご支援させて頂くこととなりました。

コンサルティング受注の中間経緯は割愛しますが、大津鉄工(株)からのコンサルティングは、NSCが業務受託し、ITCが実務を遂行するスキームで実施致しております。

まず、このスキームからご説明致します。

ITC中部とNSCは、以前からギブアンドテイクの体制【NSC-ITCC組織】をつくっております。中小企業からの色々な相談事、各種の支援要請は、NSCが窓口となって受け付け、実際の実務活動は、このNSC-ITCC組織が対応することになっております。従って、今回の大津鉄工(株)のコンサルティングは、NSC-ITCCの登録ITCから水口氏と私が人選されてコンサルティング実務を担当しました。

さて、どの中小企業幹部も同じ思いですが、思い立ったら早く実現したい、投資は少しでも安価にしたいとのご希望から、以下の2

つのフェーズを助成金事業で対応致しました。

まず、2003年下期においては、ITSSP事業の「計画書策定コンサルティング事業」に応募して、戦略的情報化システム構築を目的にした、事業所の現状分析、改善施策を経て『情報化企画書』を策定致しました。この実施手順は、皆さんご存知のITCプロセスガイドラインに沿った手順です。

ここで、出来上がった戦略的な情報化システム構想を基にして、次の助成金事業「IT活用型経営革新モデル事業」に応募致しました。

この助成金事業は、毎年応募が多くて採用される確立が低いのですが、大津鉄工(株)においては、以下のような申請内容(要約)で採択されております。

モデル事業テーマ

※「商品の受注から生産・出荷までの業務トレーサビリティを可能にし可視化することにより、顧客へ安く、早く確実に提供し、且つ生産性を向上し高付加価値企業となるための基幹業務統合管理システムを構築する事業」
※この課題実現に向けて、業界のリーディングカンパニーになることを経営目標にした取組み姿勢を記述しております。

自社の経営課題(実現目標)

- (1)トレーサビリティにより基幹業務の可視化とコントロール・システム
- (2)タイム・オーダリング・システム
- (3)基幹業務の統合管理システム

具体的な説明は割愛しますが、経営者の思いと他社差別化の方策を具体的に記述しております。

＜次ページに続く＞